

Diagnostic Performance of 48-Hour Fasting Test and Insulin Surrogates in Patients With Suspected Insulinoma

植田, 圭二郎

<https://hdl.handle.net/2324/1806869>

出版情報：九州大学, 2016, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（3）

氏 名：植田 圭二郎

論 文 名：Diagnostic Performance of 48-Hour Fasting Test and Insulin Surrogates
in Patients With Suspected Insulinoma
(インスリノーマの診断における 48 時間絶食試験と insulin surrogates
の有用性についての検討)

区 分：甲

論 文 内 容 の 要 旨

【背景】インスリノーマ診断の gold standard は 72 時間絶食試験であり，優れた感度が報告されている．しかし，患者と医療スタッフともに負担が大きく，絶食期間の短縮が試みられている．また，低血糖を起こす他の疾患でも絶食試験陽性となることがあるが，その特異度について十分な検討はされていない．

【目的】インスリノーマ診断における 48 時間絶食試験と insulin surrogates の有用性を検討する．

【対象と方法】インスリノーマが疑われて 48 時間絶食試験とその後のグルカゴン負荷試験をおこなった 35 症例(Insulinoma 群:15 症例・Non-insulinoma 群:20 症例)を対象とした．絶食期間，絶食終了時の血糖値，血清中のインスリン値と C ペプチド値，insulin surrogates である血清中の β ヒドロキシ酪酸と遊離脂肪酸，グルカゴン負荷試験に対する血糖値の反応性(Δ plasma glucose; Δ PG)を測定した．

【結果】インスリノーマ診断における 48 時間絶食試験は感度 100.0%，特異度 80.0%であった．インスリンは感度 69.2%，特異度 100.0%，C ペプチドは感度 100.0%，特異度 6.3%であった．insulin surrogates では Δ PG が感度 93.3%，特異度 75.0%で正診率 82.9%と最も優れていた．続いて 48 時間絶食試験とその他のパラメーターを組み合わせるとインスリノーマにおける診断能を評価すると，48 時間絶食試験と Δ PG の組み合わせが最も優れており，感度 93.3%，特異度 95.0%，正診率 94.3%であった．

【結論】48 時間絶食試験と Δ PG を組み合わせることで，従来法より短時間で，より正確なインスリノーマの診断が可能であった．